

2011年12月度のトピックス

12月30日

通学生のみで本年最後の練習



例年通り27日を全体練習の最終日とし、この3日間は通学が可能な部員による練習が行われた。寮生で帰省した部員や出身チームに挨拶にいった部員を除き、この日に参加した部員は48名中40名。この最終日は例年半日のみだが、朝9時から通常メニューを短縮して、効率よく練習が行われ、最後のミーティングでは卯瀧監督から「4日間の年末年始休みは各自十分自覚した行動を取るように」と注意がされ、解散となった。

12月30日

かつての名選手が恩師に挨拶



年末年始にはお世話になった卯瀧監督を訪ねて教え子たちがグラウンドにやってくる。特徴は立命館宇治のOBだけでなく、鳥羽や北嵯峨時代のOBも師を訪ねてくることだ。この日は鳥羽時代に里井コーチと同期で、3期連続甲子園に出場し、近畿大会も制した古田選手。鳥羽高校卒業後は佛教大学～明治安田生命で活躍した。挨拶だけにとどまらず、卯瀧監督から「ちょっと左投手見てもらえへんか」という依頼にも快く応じてくれる。この日は午前中はプルペンに羽張り付いて二人のサウスポーを指導してくれた。

12月3日

センター後方に新トイレ完成



グラウンド完成時から使用していたトイレが老朽化。昨年の冬休みに戸洗い場の水漏れや、便器の詰まりが常態化し、今年初めから新トイレの建設が検討されていた。今年度に入り、話しが本格化し、予算も付いて図面も具体化し、9月から工事が始まっていた。この間、仮設トイレで不自由も感じるもあったが、現場事務所がセンター後方にあったことから、現場の意見も最大限聞き入れていただいた。

まず外壁は野球場に相応しくグリーンに。そして内装は目に優しい薄い緑。便器は小便器は自動洗浄で、



男女のブースは和式と洋式の2タイプで、洋式はウォシュレット完備である。

公式戦の会場となっても今までトイレの古さに気の毒な思いもしたが、これで来場者にも気持ちよく使ってもらえる。

[硬式野球部 TOP PAGEへ](#)

2011年11月度のトピックス

11月27日

今シーズンの最終戦を連勝で幕



例年は後期中間テスト休みの直前週末が練習試合のラストとなっていたが、今年はテスト明けの27日まで試合の申し込みがあり、まさしくこの日がラストゲームとなった。試合は21世紀枠京都府代表に選出された立命館と北桑田。日中は体感温度も低くなく、変則ダブルで行われた。試合は西垣が立命館を2安打10奪三振で0封し、7回コールドで勝ち、北桑田では来春以降の成長を期して登板した中川～伊藤が北桑田打線を完璧に抑えた。

来春の練習試合は春休みを中心に30余試合が組まれている。

11月27日

3年生が大学硬式野球部の練習に初参加



夏の選手権京都大会決勝戦後に、大学硬式野球部への入部を希望していた6名が、この日初めて練習に参加した。例年は8月第1週に行われていたが、昨年は入学直前に辞退者が出たため、「じっくりと考えさせ、練習させてから」という判断でこの時期になった。なんといっても心強いのは多くの先輩が活躍しているということ。新チームでは3回生の鄭晋吾先輩が新副主将となり、徳野学生コーチとともにチームを引っ張り、秋季大会では来年のドラフト候補の金子先輩や3番を打った山口先輩らがいる。3年生たちは頼もしい先輩たちに混じって半日汗を流した。

11月13日

今や恒例!? 日没までの4試合



大阪の春日丘高校と練習試合が行われた。昨年もそうであったが、ガチンコ勝負の1試合目に続き、昼食休憩も取らずに夕刻日没までマラソン試合。両校ともこれを機会になるべく多くの部員を試合にと、けが人以外はチャンスが与えられた。これを理解して行っているのは、本校ではこの日の春日丘と北嵯峨のみ。しかし追いついたフライを落球したり、真正面のイージーゴロが捕れなかったり、春日丘監督曰く、「普段練習をしない子供を使うには勇気と忍耐がいる。まるでゴルフクラブも握ったことのない

者がいきなりコースへ放り出されたもの」。特に立
命館宇治は投手陣の弱点が露呈された結果となっ
た。

[硬式野球部 TOP PAGE](#)^

2011年10月度のトピックス

2011年度 秋季京都府高等学校野球大会2次戦 速報

10月23日

保護者会、定時委員総会を実施



23日、硬式野球部保護者会の定時委員総会が、生徒寮の食堂で行われた。1～2年生のほぼ全家庭が出席。現場からも部長・監督が出席した。卯瀧監督からチームの現状について報告し、石川部長からは今後の予定などについて確認された。新チーム発足以降、2年生の保護者を中心とした役員を発表。また新年にグラウンドで行われる「炊き出し」についても話し合われた。

10月16日

松井悠、京都選抜チームの主将に



京都府高野連は12月21日～28日の7泊8日で京都府選抜チームを編成し、シンガポール・マレーシアで野球の普及活動を行うが、このほど第1回の顔合わせ会議が洛西高校で行われた。監督は選手権大会優勝の原田英彦監督が務め、準優勝の卯瀧逸夫監督が第一コーチとして帯同する。原田監督は「主将は立命館宇治の松井君に」と直々に指名。現地では歓迎のセレモニーも多々あることが予想され、そのたびに選手代表として挨拶もしなければならない。このチャンスに野球人としてさらにステップアップしてもらいたい。

10月10日

付属中学8名が練習に体験参加



立命館宇治中学軟式野球同好会の8名が高校の練習に体験参加した。この学年で7期生。過去は各学年2～3名程度であったが、今年は過去最多の希望人数である。学校で石川先生より「付属中学生は基本的には希望者は全員入部してもらいたい。しかし過去6年間で付属出身者でレギュラーになった者はひとりもない。本当に覚悟はあるのか」と問われ、とりあえず「一日限定」の体験となった。卯瀧監督からも「焦らずに」と注意があったが、今日の経験からもう一度よ

く考え、それでも入部の強い意志を持つ者は土日を中心に今後、練習参加が許可される。

[硬式野球部 TOP PAGEへ](#)

平成23年度

秋季京都府高等学校野球大会 速報

2次戦

9月25日（日） 2回戦 対京都両洋 （福知山球場）

2回で7点献上、勝負あり

○ 京都両洋 430 000 021=10

● 立命館宇治 011 000 100=3

【京】横垣-菊地【立】西垣、伊藤、中川、山内-増井

▼3塁打 西尾（立）▼2塁打 釣井、鍵田2（京）西尾（立）

【寸評】

立命館宇治は先発した西垣が1死後四球を与えると、以下3連打と四球で3点を与え、1/3イニングで降板。続く伊藤も2回1死2塁から3連打を浴び、序盤2回で合計7失点と大炎上した。

打線は2回に2死3塁から8番・山本が中前タイムリー、3回1死1.3塁から4番松井悠の犠飛で2点を返し、3番手・中川の踏ん張りで中後半の展開に希望を繋いだ。

ポイントは7回。1番・西尾の左中間2塁打で1点を返し、なおも相手失策と四球で1死満塁のチャンスを迎えたが、4～5番が断たれ、逆に8～9回にダメ押し点を奪われ、万事休すとなった。

3回以降はどちらかといえば優位な展開であっただけに、あまりにも痛い7失点であった。

※写真は3回本塁でのクロスプレーで追加点を阻止した増井慎也（1年）



9月23日（金祝） 1回戦 対花園 （太陽が丘球場）

12安打3得点、またも拙攻

○ 立命館宇治 000 001 200=3

● 花園 001 000 010=2

【立】西垣-増井【花】北川-大谷

▼2塁打 西尾2（立）浅田2（花）

【寸評】

立命館宇治は終わってみれば12安打を放ちながら、送りバントミス（2度）、走塁ミスと拙攻を重ね、3得点に終わった。

1点を追う6回に先頭の西尾が左中間2塁打で出塁し、2番・花岡の犠打で1死3塁とすると、3番・田



中の中前タイムリーでようやく同点においついた。続く7回には相手失策から得た2死2塁のチャンスに1番・西尾が左中間2塁打、花岡・田中と連続中前打で2点を追加した。

先発した西垣は本来の出来とはほど遠く、3回に連打で先制点を献上。2点差となった8回裏には1死2塁から左越2塁打を浴び、1点差とされた。

ブロック決勝戦から同じような攻めミスによるロースコアの試合が続いており、これから対戦相手が強くなっていくだけに、短期間ながら修正が求められる。

※写真は7回の勝ち越しタイムリーをしはじめ3安打を放った西尾誠司（1年）

背番号	守備	氏名	学年	出身中学	出身チーム
1	投	西垣 翔太	2	和田山 (兵庫)	ボーイズ 朝来
2	捕	増井 慎也	1	如是 (大阪)	シニア 高槻
3	一	北本 亘	2	交野二 (大阪)	ボーイズ 大阪交野
4	二	田中 大也	1	西宇治	ボーイズ オール枚方
5	三	山本 大河	2	安祥寺	ボーイズ 大津瀬田
6	遊	西尾 誠司	1	丹南 (兵庫)	ヤング ベースボールネットワーク
7	左	花岡 紘一朗	2	奈良教育大附 (奈良)	ボーイズ 葛城JFK
8	中	松井 悠真	2	楠葉 (大阪)	ボーイズ オール枚方
9	右	杉本 健全	2	天理 (奈良)	シニア 天理
10	投	山内 牧人	2	田原本 (奈良)	シニア 天理
11	投	伊藤 誠	1	旭 (大阪)	ボーイズ ジュニアホークス
12	捕	森 矢真人	1	立命館宇治	ボーイズ 京都南山城
13	内	吉田 羽	2	畝傍 (奈良)	シニア 天理
14	内	松井 大翔	2	立命館宇治	少年野球 枚方ビクトリー
15	外	金森 雄大	2	木津	中学野球
16	外	西平 雅史	2	立命館宇治	ボーイズ 大阪西
17	投	中川 洋輔	2	奈良教育大附 (奈良)	シニア 奈良
18	内	猪砂 雄介	2	立命館宇治	中学野球
19	内	越尾 文哉	2	二名 (奈良)	ボーイズ 生駒
20	内	橋本 哲	1	北城陽	ヤング オール山城

1次戦

9月19日（月祝） 敗者復活決勝戦 対京都学園（立命館宇治）

先制するも中盤以降、拙い攻め

○ 立命館宇治 110 000 000=2

● 京都学園 000 001 000=1

【立】西垣-増井【京】木下-佐竹

▼3塁打 田中（立）

【寸評】

立命館宇治は初回、先頭の西尾が右前打で出塁し送った後、3番・田中の中前タイムリーで先制。続く2回には6番・港の右前打を送った後、8番・増井の中前タイムリーで追加点を奪い、一方的展開に持ち込むかに思えた。

しかし続く3～4回、6～7回といずれも先頭打者を出しながら、自らのミスで走者を進められず、緊迫した展開となってしまった。

一昨日に続いて先発した西垣は5回まで1安打ピッチングであったが、6回に2安打を浴びて1点を返された。7回にも1死満塁のピンチを迎えたが、渾身の投球で後続を断った。9回完投で被安打5、4四球、奪三振8。

3回以降、再三訪れる好機に追加点を奪えなかったことが、終盤の重苦しい展開に繋がった。

立命館宇治はこれで秋に限っては15年連続の2次戦進出を決めた。

※写真は初回、タイムリーを放った田中大也（1年）



9月17日（土） 決勝戦 対乙訓 （乙訓高校G）

終始悪いリズムで、乙訓に完敗

● 立命館宇治 000 001 000=1
○ 乙訓 200 001 00X=3X

【立】西垣-増井【乙】津田-佐藤

▼3塁打 杉本（立）▼2塁打 西尾（立）

【寸評】

立命館宇治は初回の守りの乱れで先制され、以降終始リズムに乗れないまま完敗してしまいました。

先発・西垣は先頭打者に左前ヘテキサス安打を許すと、2・3番に連続四球を与え無死満塁。続く打者を三振に獲ったものの、次打者の打ち取った内野ゴロが本塁悪送球となり先制を許すと、2死から内野安打でさらに追加点を奪われた。

攻撃は3回2死2・3塁（3番・左飛）、4回1死満塁（8番・内野ゴロ併殺）、5回2死2・3塁（4番・左飛）、7回2死2塁（4番・左飛）とことごとくチャンスをものに出来ず、6回2死3塁から8番・増井の右前打で1点を返すに留まった。

逆に1点差とした6回裏に1死1・3塁から内野ゴロの間に追加点を奪われてしまい、最後まで自分たちのリズムになれないまま、ズルズルと後退した。



※写真は2今大会初先発した西垣翔太（2年）

9月10日（土） 2回戦 対京都学園 （立命館宇治）

松井悠、2試合連続ホームラン

○ 立命館宇治 020 000 505=12

● 京都学園 100 100 100=3

【立】山内、西垣-増井【京】木下、松村-佐竹

▼本塁打 松井悠（立）▼3塁打 花岡（立）

▼2塁打 北澤、堂、佐竹（京）西垣（立）

【寸評】

2-2と緊迫した展開で終盤に突入した7回、立命館宇治は2番・花岡が右越3塁打で出塁し、さらに四球で得た無死1.3塁のチャンスに、4番・松井悠が2試合連続となる勝ち越し3点本塁打で一気に勝利をたぐり寄せた。この回さらに2死2.3塁から9番・西垣が左翼線に2塁打を放ち5点を勝ち越すと、9回には5安打を集中してさらに5点と一気に突き放した。

試合は先発した立命館宇治・山内が初回2死無走者から3連打を浴びて先制されたが、直後の2回に2死2塁から8番・増井の中前打で追いつくと、なおも1番・西尾の中前テキサスで勝ち越した。山内は4回無死から際どいコースがボールとなったところから崩れ、西垣のリリーフを仰いだ。西垣はバツクの乱れで同点に追いつかれたが、6回で被安打3、奪三振11、2四球と勢いに乗りかけていた京都学園打線を押さえ込んだ。



※写真は2試合連続本塁打を放った松井悠真（2年）

8月27日（土） 1回戦 対京都八幡 （立命館宇治）

初回から集中打!! 1安打リレー

● 京都八幡 000 00=0

○ 立命館宇治 340 3X=10X

（5回コールド）

【京】入江-辻井【立】伊藤、西垣-増井

▼本塁打 松井悠（立）▼2塁打 松井悠（立）

【寸評】

立命館宇治は初回、内野安打で出塁した西尾を送った後、3番・田中の中前打で先制すると、続く4番・松井悠の左中間2塁打、さらに犠飛で3点を入れた。



2回には9番・山本から始まる8連打で4点。3回には松井悠の左中間本塁打を含む5安打で試合を決めた。

公式戦初先発の伊藤は立ち上がりは無難に切り抜けたものの、4回で1安打4四死球とやや制球を欠き、5回は西垣が2奪三振で閉めた。

攻撃は17安打で10点、2回には8人連続安打を放ちながら牽制死や本塁憤死で4点に留まるなど、決して効率の良い攻撃ではなかった。

※写真は公式戦初先発の伊藤誠（1年）

背番号	守備	氏名	学年	出身中学	出身チーム
1	投	山内 牧人	2	田原本 (奈良)	シニア 天理
2	捕	増井 慎也	1	如是 (大阪)	シニア 高槻
3	一	北本 亘	2	交野二 (大阪)	ボーイス 大阪交野
4	二	田中 大也	1	西宇治	ボーイス オール枚方
5	三	港 卓朗	2	ハンコク日本人学校 (海外)	ハンコクサンパース
6	遊	西尾 誠司	1	丹南 (兵庫)	ヤング ベースボールネットワーク
7	左	花岡絃一朗	2	奈良教育大附 (奈良)	ボーイス 葛城JFK
8	中	松井 悠真	2	楠葉 (大阪)	ボーイス オール枚方
9	右	杉本 健全	2	天理 (奈良)	シニア 天理
10	内	山本 大河	2	安祥寺	ボーイス 大津瀬田
11	投	伊藤 誠	1	旭 (大阪)	ボーイス ジュニアホークス
12	捕	森 矢真人	1	立命館宇治	ボーイス 京都南山城
13	内	吉田 羽	2	畝傍 (奈良)	シニア 天理
14	内	松井 大翔	2	立命館宇治	少年野球 枚方ビクトリー
15	外	金森 雄大	2	木津	中学野球
16	外	西平 雅史	2	立命館宇治	ボーイス 大阪西
17	投	中川 洋輔	2	奈良教育大附 (奈良)	シニア 奈良
18	投	西垣 翔太	2	和田山 (兵庫)	ボーイス 朝来
19	内	越尾 文哉	2	二名 (奈良)	ボーイス 生駒
20	内	橋本 哲	1	北城陽	ヤング オール山城

2011年9月度のトピックス

9月30日

今年は「鼻の差」で死守!! クラブ対抗



本日は体育祭。なんと言っても意地でも負けられないのが「クラブ対抗リレー」。一昨年にパインミスでリレーが繋がらなかった以外は1位を独占してきたが、今年はどうか。京都サンガが参加して以来、ここ2～3年はデッドヒートを展開している。今年は3年生だけでメンバーを組み、田邊～溝端～小林～小牧～村田～土肥と豪華メンバー。結果は予想通り、京都サンガとの一騎打ちになり、アンカーまでもつれる勝負に。結局「鼻の差」でサンガを退け、1位は死守した。また校内最速を決める「韋駄天杯」は2年の山本大河が上級生を押さえて優勝した。

9月29日

京都府高野連優秀選手に古川前主将



京都府高野連は今年度優秀選手6名を発表し、立命館宇治高校からは古川昂樹前主将が選ばれた。年に3回ある公式戦で優勝・準優勝校から選ばれており、春季大会優勝、選手権京都大会準優勝の成績を収めた立命館宇治から堂々の選出となった。古川前主将は1年夏からレギュラー選手として活躍し、秋からは4番。選抜大会にも出場し、新チームからは押しも押されぬ形で主将となった。派手さよりも堅実さが売りで、プレーもさることながら、野球に対する姿勢も同級生のみならず後輩からも慕われていた。

9月26日

内野部分をてこ入れ改修



このグラウンドを活動拠点として以来、9年目に突入した。近年の悩みはいくら丁寧にグラウンド整備しても生じるグラウンドのでこぼこ。黒土は地面の下に沈み、砂が浮いている状況で、グラウンドそのものが柔らかい。いくら定期的に人力で補修してもいかんともしい状況であった。スタッフで相談し、「部費でできる範囲で何とか」とグラウンドを建設してくれた業者に相談。「9年前の状況に戻るよう何とかやってみます」と快く引き受けていただいた。また低かったマウンドも「若さスタジアムと同じように」と手が加えられ

た。本来は秋季大会後半に向けて役立つようにという思いであったが、来春以降に生かしてもらいたい。

9月22日

グラウンドのトイレを新しく建築中



センター後方にあるトイレが取り壊され、新しいものが建てられようとしている。グラウンド完成当時から使用していた旧トイレは、スパイクでの出入りもあり、床が損傷。度重なる補強工事にも耐えきれなくなってきた。また頻繁な清掃にもかかわらず、便器も古くなってきたため、学園が「外部の方もたくさん来られるこのグラウンドで、限界に達している」と判断され、建築確認などを経て、ようやく取りかかりとなった。旧のものとは比べてやや大きくなり、洋式便所もつくことになる。完成は11月末の予定。

9月10日

里井コーチが公式戦で塁審に入る



この日は各校で1次戦が行われたが、3審制であっても各会場の審判が不足。合計12試合で各校顧問やコーチが塁審に入った。立命館宇治会場でも里井祥吾コーチが第2試合の3塁の塁審に。前日のシート打撃では練習を兼ねてジャッジの練習をし、この日を迎えた。「選抜のかかる秋季大会でのジャッジなので緊張します」と語る里井コーチであったが、第1試合途中でユニフォームから着替え、グラウンドに飛び出した。

9月10日

海外研修旅行から帰国の3年生が応援



夏休み後半に海外研修旅行で世界各国で貴重な体験をしてきた3年生が先週から順次帰国し、この日の公式戦には大挙して応援に駆けつけた。中には本場メジャーリーグでイチローを観戦できるオプションツアーに参加した者もあり、語学だけでなく様々な体験できた様子。この日はそれぞれのコース土産をスタッフや後輩に届けてくれた。この1週間は帰国した3年生がバッティング投手を務めにグラウンドに精力的に顔を出し、京都学園サウスポー攻略に貢献してくれた。

2011年8月度のトピックス

8月22日

松井悠真主将が京都府選抜チームに選出



京都府高野連は今年度の事業のひとつとして初めての海外派遣を実施する。2011年12月21日（水）～28日（水）まで、京都府選抜チームを組み、シンガポール・マレーシアを回り、親善試合を行う。このほど連盟より京都選抜チームの選手18名が発表され、本校からは松井悠真主将が選出された。メンバーは先の選手権大会に出場した2年生で、各校1名の推薦者の中から選出されたもので、本校からは松井悠真を推薦していた。選抜チームの監督は選手権京都大会優勝の原田英彦龍谷大平安監督が務め、準優勝の卯瀧監督は第一コーチしてチームに帯同する。

8月19日

赤いキャップでジャッジ!! 部員審判



練習試合の球審は連盟の審判員を派遣していただいても、塁審は部員が交替で務めるのが常である。それも野球の勉強のひとつだが、グラウンドに散らばるとどうもプレーヤーとの見分けがつきにくい。そこで登場したのがスタッフルームに眠っていた赤いキャップ。「塁審用に」と里井コーチが提案。これならグラウンドで一目瞭然。部員たちも気に入って着帽し、きびきびとジャッジしている。

8月11日

東海関東遠征記6 負け越しで帰着



最終日の2試合も負け、初の東海関東遠征は負け越しでの帰着となった。今回は4泊5日で10試合。うち8試合が変則ダブルで、4泊とも違う宿舎という試みがあった。しかし2週間後に迫った秋季大会を見据えての試合は決して悲観材料ばかりではなく、収穫も多々あった。ひ弱に見えた投手陣は使い次第では力を発揮できる場面があり、野手でもチャンスをつかみ、経験を積むごとに持ち味を発揮し始める者が出てきた。試合に出ていたメンバーは疲労困憊だが、今日対戦した横浜隼人ナインは何と12泊13日の遠征中にもかかわらず、元気に動き回っていた。一日も早く少しでも追いつきたい。

8月10日

東海関東遠征記5 他県強豪校の充実設備



上を見たらきりが無い。本校の硬式野球部も同じ市内に十分な広さの専用グラウンドがあり、府内では屈指の充実さを誇る。しかし8日の岐阜第一、昨日の東海大相模、本日の豊川はスケールではさらにその上をいく。いずれも専用グラウンドがあるのは勿論だが、センター後方に野球部専用合宿所を有する。食事は全てそこで管理されている（岐阜第一は24時間「ご飯」「納豆」「生卵」は食べ放題）。グラウンドは立命館宇治と変わらずとも、フェールゾーンの広さ・室内練習場の規模など、上を見てはいけないと思いつつも、思わず感心してしまう。

8月10日

東海関東遠征記4 今までにない様々な経験



今回の遠征の特徴は一カ所に留まらずに、試合が終わればバスで長距離移動し、次の宿泊先で一泊して試合をするというもの。宿泊は昔ながらの純和式の料理旅館あり、シティホテルあり、ビジネスホテルあり。そして部屋も和室あり、洋室あり。一人部屋の時もあれば、和室に数人で寝ることもある。9日に宿泊したビジネスホテルは他の学校の他競技の高校生と同宿だったため、食事はホテルから徒歩2分の寿司屋で準備していただいた。夕・朝・試合日の昼と3食で2000円。なんとご飯は「足りないと言われるのが恥じだから」という大将の心意気か、ひとりひとりの丼に2合のご飯が盛られていた。初めて見ました2合盛り。

8月9日

東海関東遠征記3 東日本の横綱に挑戦



5日間（4泊）で10試合の遠征も本日が中日。昨夏の選手権準優勝校で、春の選抜優勝校・東海大相模にダブルで胸を借りた。今回の遠征では想定外の投手陣のやりくりを余儀なくされているだけに、「コールド敗戦も覚悟」で挑んだ。両チームとも2試合とも投手以外は現段階でのレギュラーメンバーで行われたが、1試合目は中盤からがちり四つに組み、惜しくも3-4と1点届かず惜敗。2試合目は逆に序盤から果敢に攻め、1年生投手陣が懸命のリレーで6-4と逃げ切った。

疲労困憊の中での闘いではあったが「ゲームの中でしか得られない収穫がかなりあった」（卯瀧監督）のは確かである。

8月8日

東海関東遠征記2 遠征合宿で「食べる」



いつものことであるが、遠征合宿の2日目になると多くの部員の食欲が落ちる。和やかな雰囲気での長々と時間をかけて食べることはできても、「食べることも練習であり、合宿では大きな意味を持つ」と言われると途端に食べられない。特にこの暑い中での連戦は体力を消耗し、食べなければ力も発揮できない。この日の試合では会場の生徒食堂が安価で「冷めんとカツ丼」を準備してくださり、喉ごしも良かったはずだが、多くの部員は食べる「勢い」がない。遠征合宿は4泊5日だが、今後の不安である。

8月7日

東海関東遠征記1 早くも失点ダッシュの嵐



今年度は昨年まで4年間お世話になった岡山広島遠征に代わり、初めて東海関東遠征を組んだ。5日間で10試合は1.2年生の投手陣にある程度「質と量」が見込めたからだが、8月に入り早くも投手陣のひ弱さが露呈されつつある。7月の地元との練習試合は連戦大勝だったが、8月に入るや他府県との試合では投手陣が終盤に踏ん張れず、逆転されるケースが多い。今日から始まった遠征の最初の2日間は「中京大学OB指導者交流試合」だが、いきなり登板した1年生投手陣が四球を連発し、大量リードしていた試合をひっくり返されてしまった。新チームから始まる失点ダッシュは遠征初日から過酷なものとなった。

2011年7月度のトピックス

第93回全国高等学校野球選手権京都大会 特集

7月28日

新チームの練習試合がスタート



3年前の準優勝の時は、決勝戦の翌日が新チーム初の練習試合であった。今回は新チーム発足3日目であるが練習試合がスタートした。夏の大会のメンバー調整練習の後は必ず下級生のメンバー外練習を行ってきたため、「ぶっつけ本番」ではないが、30日が秋季大会抽選日で、1ヶ月後には大会はスタートしている。メンバーに入れるかどうかは実質来月上旬に決まるのが例年であり、現役部員にとっては「まずはぼちぼちと」では話にならない。激しいサバイバルはもうスタートを切っているのである。

7月26日

松井悠主将、猪砂副主将で新チームスタート



新チームのスタートは敗戦当日からという伝統であるが、昨日は長かった試合時間、交通渋滞、準優勝報告会が重なり、本日に持ち越された。3年生の意見を参考にして決められる新主将は旧チームから主軸を務める松井悠真に。そして副主将はスタッフで話し合った結果、主務兼務で猪砂雄介が指名された。猪砂副主将は一貫生徒であり、一貫からの幹部は3年前の今西OB以来二人目。

練習は3年生も連日ノッカーを務める強化練習から。昨日までの練習用ユニフォームからTシャツ姿でグラントに姿を見せた3年生は現役に連日100ノックを行った。

7月25日

闘いを終えて...。学校で準優勝報告会



選手権京都大会で準優勝に終わった部員80名は、ホームグラウンドへは向かわずに、学校での準優勝報告会に参加した。応援に花を添えてくれたチアリーダーとブラスバンド部員に迎えられ、部員は多目的ホールに集合。汐崎校長から激戦の労いの言葉がかけられ、卯瀧監督からは準優勝の報告、古川主将からは応援のお礼が述べられた。夕刻遅くにもかかわらず多くの教職員に迎えられ、最後に記念撮影が行われた。

7月12日

スタンドで大学生OB21名が応援



大会初戦は日曜日の試合だったため、ブラスバンドやチアの動員があったが、以降は平常授業期間中のため、一般生徒の応援はなし。スタンドには保護者のみの応援となる予定であった。前半戦で唯一わかさスタジアムでの試合となった2回戦では大学生OB21名が集結し、スタンドで応援してくれた。それも1～4回生の全学年がそろう踏み。OBも4学年揃うと壮観であり、プレーする部員に大きな追い風となった。

7月3日

わかさスタジアムを体験 審判講習会で



選手権京都大会を前にして、わかさスタジアム京都で審判講習会が行われ、本校の下級生メンバーがモニター部員として協力をさせていただいた。春季大会の上位校から協力の依頼があるのが常であり、優勝校としては当然協力させていただかなければならない。下級生にとってはいつもスタンドからしか見ていないグラウンドで、試合ではないとはいえ、プレーできたことは近い将来の貴重な経験となることを願いたい。

7月2日

加盟各校にステッカー「がんばろう! 日本」



試合用ヘルメットに「がんばろう! 日本」のステッカー。選手権京都大会を前にして、京都府高野連から加盟各校に12枚ずつ配布され、左右どちらかの耳カバーの上部に張ることになった。我がチームは震災の直接的な影響はなかったが、春先の練習試合では北海道・東北・北関東からの遠征チームは約半数がキャンセルになった。選抜大会の選手宣誓のように「生かされている命」に感謝し、選手権大会でも精一杯のプレーを期待したい。

[硬式野球部 TOP PAGEへ](#)

第93回全国高等学校野球選手権京都大会 速報

7月25日（月） 決勝 対龍谷大平安（わかさスタジアム京都）

ジンクス敗れず、防戦一方

○ 龍谷大平安 010 303 101=9

● 立命館宇治 010 000 110=3

【龍】太田、田村-戸嶋【立】福本、川部-小林

▼3塁打 柴森、松下（龍）▼2塁打 久保田、小嶋、井澤、太田（龍）

蔵立、田中大、小林、川部（立）

【寸評】 2回に先制点を奪われた立命館宇治は、その裏2死から7番・蔵立、8番・田中大の連続2塁打で同点に追いついた。

しかし先発の福本は立ち上がりから快心の当たりを次々と浴び、4回1死で降板。リリーフした川部も火の付いた龍谷大平安打線を止めることは出来ず、中盤で勝敗の大勢は決した。

終盤に何とか意地を見せ、7回には1死2塁から9番・川部の右翼線2塁打で、8回には1死1.2塁から蔵立の中前タイムリーで得点したが、中盤までの失点はあまりにも大きかった。

結局平安の15安打に対し、立命館宇治打線も11安打を放ったが、快進撃の一因となった集中打は最後まで影を潜めたままだった。

立命館宇治は1982年以来、29年ぶりの優勝を狙ったが、準優勝に終わった。この29年間で準優勝5回。「春を制する者に夏はない」。いつの頃からか京都で囁かれるこのジンクスに果敢に挑み、大会序盤から次々とシード校が姿を消す中、第一シードとして決勝戦にコマを進めたが、この悔しさは後輩達に受け継がれることになった。

※写真はピンチにマウンドに集まる内野陣



7月24日（日） 準決勝 対京都両洋（わかさスタジアム京都）

5回打者一巡で一気に逆転

● 京都両洋 201 002 000=5

○ 立命館宇治 200 050 20X=9X

【京】横垣、光山-菊池、吉松【立】福本-小林

▼3塁打 鍵田（京）▼2塁打 鍵田、菊池、光山（京）

土肥、古川（立）

【寸評】

立命館宇治は1点を追う5回、先頭の土肥が中前打で出塁すると、2番・花岡が送り、3番・松井が四球を選び、重盗を決めてチャンスを広げ、4番・古川が右中間を破る2塁打を放ち、逆転に成功した。なおも攻撃の手を緩めず、2死満塁から7番・蔵立の当たりが相手失策を誘い、8番・福本が左前打。この回打者一巡で計5点を記録した。



今大会3度目の先発・福本はスピード・切れ・制球とも本来とはほど遠く、立ち上がりから2点を奪われ、3回にも勝ち越し点を許した。結局完投はしたものの8安打5四死球と勢いある京都両洋打線に苦しめられた。

打線は2点を先行された1回に2安打で、2点差に追い上げられた7回には3安打2四死球で突き放した。

立命館宇治は3年ぶり7度目の決勝戦に進出。29年ぶり3度目の優勝を目指す。

※写真は逆転の2塁打を放った古川昂樹（3年）

7月22日（金） 準々決勝 対福知山 （わかさスタジアム京都）

初回10人攻撃で7回コールド

○ 立命館宇治 500 002 1=8

● 福知山 000 001 0=1

（7回コールド）

【福】石原-大嶋【立】川部-小林

▼3塁打 土肥、花岡（立）

▼2塁打 古川（立）

【寸評】

立命館宇治は初回、先頭の土肥が左中間フェンス直撃の3塁打で出塁し、2番・花岡の左前打で先制、3番・松井が送って1死2塁とすると、4番・古川の中越2塁打で2点目を入れ、5番・小林、6番・溝端、7番・蔵立の連続安打、8番が失策で出塁後も9番・川部が中前へ2点タイムリーを放ち、5点を記録した。



今大会2度目の先発・川部は5回まで3四球1安打と快調に飛ばし、6回に1安打1失策1四球で満塁とされた後、押し出しで1点を与えたが、完投した。

打線は2回以降立ち直った福知山・石原に追加点を奪えずにいたが、6回には3連打で2点、7回には1死3塁から8番・田中大の犠飛で追加点を入れ、コールドとした。

立命館宇治は準優勝した3年前以来のベスト4へ進出。24日第1試合で京都両洋と決勝戦進出をかけて戦う。

※写真は先制点を含め3安打の花岡紘一朗（2年）

7月18日（月祝） 4回戦 対久御山 （わかさスタジアム京都）

ゲーム終盤に全員で再逆転

○ 立命館宇治 101 010 330 3=12

● 久御山 001 000 800 0=9

（延長10回）

【立】福本、川部-小林【久】和田洸、内野、和田誉
和田誉

▼3塁打 土肥、小林2（立）

▼2塁打 川部（立）井上（久）

【寸評】

3-1で迎えた7回表、立命館宇治は雨が激しくなり制球が定まらない久御山の和田洸を攻めたて、三四球と5番・小林のタイムリーで3点を加え、6-1と試合の大勢を決したかに思えた。

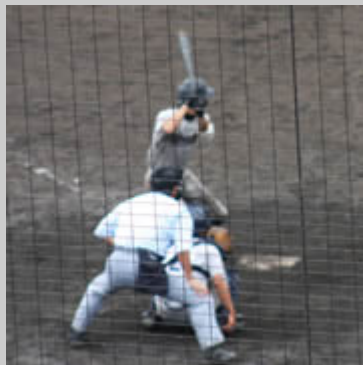
しかし続く7回裏二死走者無しから、先発・福本が突如制球を乱し、4四死球5安打で6失点と逆転を許し、リリーフした川部も2連続押し出しで、一挙に6-9とされた。

残り2回で逆転に賭ける立命館宇治は、8回表先頭の川部が右越2塁打で出塁すると。2死から4連続四死球と6番・溝端のタイムリーで同点に追いつき、延長に入った10回には内野安打と四球で得た1死1.2塁のチャンスに、小林が左越3塁打を放って勝ち越した。

福本をリリーフした川部は10回裏も懸命の投球を見せ、久御山の反撃を断ち切った。

台風の影響で雨が激しくなる一方での試合であったが、久御山投手陣が15四死球、立命館宇治投手陣が7四死球であったのを見ると、7回に相手に与えたビッグイニングはあまりにも大きな衝撃であった。「ここで負けるわけにはいかない」という気迫が全員攻撃を生み出したが、大会後半に向けて大きな教訓となった。

※写真は勝越し3塁打を含め5打数4安打の小林真人（3年）



7月15日（金） 3回戦 対京都国際 （宮津市民球場）

初回から猛攻!! 7回コールド

- 京都国際 000 000 1=1
- 立命館宇治 402 201 X=9X
(7回コールド)

【京】池田、尾崎、古野-申【立】川部-小林

▼3塁打 小林、溝端、田中大 (立)

▼2塁打 森 (京) 蔵立、古川 (立)

【寸評】 初回2死1塁から4番・古川の2塁打で先制した立命館宇治は、続く5番・小林の中前タイムリーで2点目。四球を挟んで8番・蔵立が右中間に2塁打を放ち、打者一巡の猛攻で4点を先制した。

その後も攻撃の手を緩めず、3回には1死2,3塁から8番・田中大の右中間3塁打で2点。4回には古川のタイムリーと6番・溝端の右越3塁打で2点を追加し、大勢を決めた。

昨夏の公式戦以来1年ぶり登板となった先発川部は5回まで被安打2の完璧な内容で、最終回に1点を失ったが無四球で、公式戦では1年秋の近畿大会(準々決勝・智辯和歌山)以来、実に1年9ヶ月ぶりの白星を挙げた。

大会前半を西垣(1回戦7回0封) 福本(2回戦9回1失点) 川部(3回戦7回1失点)とローテーションし、山場の後半戦を迎える。



※写真は初回タイムリー2塁打を放った蔵立涼太(3年)

7月12日(火) 2回戦 対北嵯峨 (わかさスタジアム京都)

全て2死から得点し、完勝

- 北 嵯 峨 000 000 100=1
- 立命館宇治 100 220 00X=5X

【北】庄司、奥田-榎川【立】福本-小林

▼本塁打 榎川(北) ▼3塁打 土肥(立)

▼2塁打 榎川(北)

【寸評】 初回2死満塁から押し出しで1点を先制した立命館宇治は、4回2死から8番・蔵立が左前打で出塁すると、9番・田中大が中前へ、続く1番・土肥が右越へ3塁打を放ち、貴重な2点を追加した。続く5回には2安打と犠打で得た2死2.3塁のチャンスに7番・福本がしぶとく中前にタイムリーを放ってさらに2点を追加し、前半で試合を優位に進めた。

今大会初先発の福本は北嵯峨打線を4番・榎川に打たれた2安打のみに封じ、11奪三振無四死球で完投した。



※写真は4回2死1.2塁から右越3塁打を放った土肥純平（3年）

7月9日（日） 1回戦 対洛陽工 （太陽が丘球場）

中盤以降ようやく「らしさ」

- 洛陽工 000 000 0=0
- 立命館宇治 010 043 X=8X
(7回コールド)

【洛】伊藤-川合【立】西垣-小林

▼3塁打 松井2、溝端（立）

【寸評】

トーナメント初戦の独特の雰囲気の中で、試合は5回まで1-0。立命館宇治の打線が繋がりに出したのは、中盤の6回だった。相手失策と四球で得た1死2.3塁のチャンスに、3番・松井が右前へ2点タイムリー。ダブルスチールと6番・溝端の右越3塁打でさらに2点を追加し、ようやく重苦しい雰囲気から終止符を打った。6回には松井の右越3塁打と4番・古川の左前タイムリーでさらに3点を加えた。

立命館宇治の先発・西垣はコントロールがやや不安定だったが、7回で被安打2、10奪三振で洛陽工打線を0封した。



※写真は先発で7回を0封した西垣翔太（2年）

大会登録メンバー

背番号	守備	氏名	学年	出身中学	出身チーム
1	投	福本 拓也	3	山崎東 (兵庫)	中学野球部
2	捕	小林 真人	3	島本二 (大阪)	中学野球部
3	一	西村 幸樹	3	白糸	ボーイズ 舞鶴BBC
4	二	田中 大也	1	西宇治	ボーイズ オール枚方
5	三	古川 昂樹	3	上牧二 (奈良)	ボーイズ 香芝
6	遊	土肥 純平	3	男山三	中学野球部
7	左	花岡紘一郎	2	奈良教育大附 (奈良)	ボーイズ 葛城JFK
8	中	松井 悠真	2	楠葉 (大阪)	ボーイズ オール枚方
9	右	溝端 茂樹	3	山滝 (大阪)	シニア 岸和田
10	投	西垣 翔太	2	和田山 (兵庫)	ボーイズ 朝来
11	投	山内 牧人	2	田原本 (奈良)	シニア 天理
12	捕	村田 昌史	3	大阪桐蔭 (大阪)	シニア 甲子園
13	内	植本 真澄	3	立命館宇治	ボーイズ オール大和
14	内	中森 胤人	3	山城	ヤング オール山城
15	内	田中 遼太	3	大枝	ボーイズ 京都ホークス
16	外	榎田 純也	3	葛上 (奈良)	ヤング 御所南都クラブ
17	外	田邊 隼斗	3	神川	ボーイズ 南山城ドラゴンズ
18	内	蔵立 涼太	3	松原	ボーイズ 京都スターズ
19	投	川部 開大	3	島本二 (大阪)	シニア 高槻
20	捕	増井 慎也	1	如是 (大阪)	シニア 高槻

硬式野球部 TOP PAGE^

2011年6月度のトピックス

2011年度春季近畿地区高等学校野球大会 速報

6月25日

29年ぶりに第1シードで抽選会へ



7月9日から始まる選手権京都大会の組みあわせ抽選会が、京都外大森田記念講堂で行われた。春季大会に29年ぶりに優勝しているため、第1シードとして予備抽選、本抽選とも先頭でくじを引くことになった古川主将は「相手はどこでも同じ。自分たちの戦いをするだけ」と落ち着いたもの。最終的には頂点を見据えながら、昨年は初戦で足下をすくわれたことを決して忘れず、どこにあたるのを冷静に見極めている様子であった。

6月20日

金子侑司先輩が日本代表に



3年前の選手権京都大会準優勝でリードオフマンとして活躍した立命館大学の金子侑司OBが、来月2日からアメリカで行われる日米大学野球の日本代表チーム22名の一員に選出された。昨年も2回生ながら代表候補となり、最終選考で惜しくも漏れていただけに、今年は活躍が期待される。高校時代は50メートル5.9秒に加え、左右どちらからでも打て、堅実な守備で、プロからも注目されていた。大学では異例の1回生春からのレギュラーとなり、ベストナインにも選出されたこともある。日本はアウェイでは1度しか優勝していないが、今秋のドラフト候補軍団の中で、目一杯暴れてもらいたい。

※写真は高校3年時の夏の大会

6月19日

新チーム発足から100勝へ到達



週末の練習試合で3勝し、10年7月30日から始まった現チームの勝ち星はちょうど100勝となった（17敗4分）。この勝ち星の中にはB戦のものも含まれているが、敗戦の中のA戦のものは新チーム発足時の三重、秋季大会での福知山成美、春季近畿大会の商大堺、先週の天理と4敗のみ。練習試合が雨でほとんど流れなかったことに加え、練習試合レベルならゲームメイクできる投手陣が常に数名以上がいることが大きな要因だが、年間100勝はそれでもなかなか到達できる数字ではない。

6月11日

わずかのスペースを探して練習



前日からの雨が午前中まで降り続き、練習試合は中止になった。正午過ぎには土曜講座の受講生が戻ってきたが、とてもじゃないが室内練習場で全員が満足に動ける余裕はない。グラウンドの水はけは良い方だが、場所によって水の引き方が若干異なる。本来の内野・外野に拘ってはとてもじゃないが、時間が足りない。そこでわずかでも乾きの早いスペースを見つけ、寸暇を惜しんで練習が開始された。今に始まった光景ではないが、これも専用グラウンドかさせる技である。

6月5日

近畿から帰着、即夏の強化練が再開



悔しがっている暇はない。他チームと比べて夏の強化練習が遅れているという事実は何も変わらない。近畿大会まため...というより前期中間テストのために一時的に中断されていた夏の強化練習が近畿大会から帰着後、即再開された。恒例の100本ノックで守備を徹底的に鍛え、身体を限界まで追い込む。もう中断はない。夏の大会のトーナメントの山場から逆算して2週間前までこの練習は続く。

6月4日

3年生考案!! スタンド応援用新グッズ



近畿大会は京都大会と同じく太鼓などによる鳴り物の応援は自粛という通達がなされた。頼りは部員達の声とメガホンのみであるが、この近畿大会は3年生の考案で新グッズが登場した。舞洲スタジアムで部員が掲げる巨大メガホンは、工事現場などで目印に置かれるコーン。この先端の尖った部分を数センチ切り取り、周辺をうまくビニルテープで加工した。誇らしげに示してくれているのは堀と金田の両3年生である。

[硬式野球部 TOP PAGE](#)^

平成23年度

春季近畿地区高等学校野球大会 速報

6月5日（日） 準決勝 対大商大堺（舞洲ベースボールスタジアム）

防戦一方!! ベスト4で幕

○ 大商大堺 102 300 006=12

● 立命館宇治 000 012 010=4

【大】竹内-浜中【立】福本-小林

▼3塁打 岡野（大）▼2塁打 知念、浜中（大）松井（立）

【寸評】

「大阪府1位に勝ったから、大阪府3位に勝てるとは限らない。野球はそんなに甘くない」。前日の試合後の卯瀧監督のミーティングでの言葉が具現化される結果となった。

前日に引き続き連投となった福本は、ストレート・変化球の切れが悪いばかりでなく、球がごとごとくベルト付近に集中し、修羅場をくぐり抜けてきた大阪府代表に格好の餌食となり、22安打を浴びた。

中盤以降、立ち直りかけ、5回には小林、6回には松井、8回には花岡のタイムリーで一時は2点差までに追いついたが、そこまでだった。

敗因は連投の福本だけではない。打線も3・7回以外毎回スコアリングポジションに走者を置きながら、あと1本が出なかった。

春の近畿大会で歴史的な1勝をあげたことは大きな前進だが、夏に向けた不安材料も出た終わりとなった。

※写真は6回にタイムリー2塁打を放った松井悠真（2年）



6月4日（土） 1回戦 対大阪桐蔭（舞洲ベースボールスタジアム）

9回に白熱の攻防!! 薄氷の逃げ切り

り

○ 立命館宇治 110 000 004=6

● 大阪桐蔭 100 000 004=5

【立】福本-小林【大】藤浪-川端

▼本塁打 山根、藤田（大）▼3塁打 古川、溝端
（立）

▼2塁打 土肥、小林（立）北川（大）

【寸評】

立命館宇治は1点リードの9回、1番・土肥と3番・松井の安打で1死1・3塁のチャンスを作ると、4番・古川が左中間にタイムリー3塁打を放ち2点を追加。6番・溝端が四球で出塁すると7番・小林が左越えに2塁打を放ち、2者を迎え入れて6-1と突き放した。

ところが大阪桐蔭は最終回、大阪府1位の意地を見せ、先頭の代打が本塁打で1点を返すと、続く9番が安打で出塁し、1番打者がまたも左越えに2点本塁打を放った。8回まで6安打に押さえていた福本は、結局この2本塁打を含めて9回に6安打を集中され、最後は2死満塁と一打サヨナラの場面となったが、最後の打者を三振にとり、薄氷の逃げ切りとなった。

試合は立ち上がりから大阪桐蔭の196センチのエース藤浪を攻め、初回は土肥の2塁打で、2回には溝端の3塁打などで1点ずつを取り、1点差で後半戦を迎えていた。

福本は2回以降は丁寧な投球で8回まではゲームメイクできたが、勝利をたぐり寄せたかに思えた最終回到に猛反撃にあった。

立命館宇治は創部以来、春の近畿大会では初の勝利をあげた。

準決勝は5日、大商大堺（大阪府3位）と対戦する。

※写真は9回、貴重なタイムリー3塁打を放った古川昂樹（3年）



近畿大会 登録メンバー

背番号	守備	氏名	学年	出身中学		出身チーム	
1	投	福本 拓也	3	山崎東	(兵庫)	中学野球部	
2	捕	小林 真人	3	島本二	(大阪)	中学野球部	
3	一	西村 幸樹	3	白系		ボーイス	舞鶴BBC
4	二	田中 大也	1	西宇治		ボーイス	オール枚方
5	三	古川 昂樹	3	上牧二	(奈良)	ボーイス	香芝
6	遊	土肥 純平	3	男山三		中学野球部	
7	左	花岡 紘一郎	2	奈良教育大附	(奈良)	ボーイス	葛城JFK
8	中	松井 悠真	2	楠葉	(大阪)	ボーイス	オール枚方
9	右	溝端 茂樹	3	山滝	(大阪)	シニア	岸和田
10	投	西垣 翔太	2	和田山	(兵庫)	ボーイス	朝来
11	投	山内 牧人	2	田原本	(奈良)	シニア	天理
12	捕	村田 昌史	3	大阪桐蔭	(大阪)	シニア	甲子園
13	内	植本 真澄	3	立命館宇治		ボーイス	オール大和
14	内	中森 胤人	3	山城		ヤング	オール山城
15	内	田中 遼太	3	大枝		ボーイス	京都ホークス
16	外	椋田 純也	3	葛上	(奈良)	ヤング	御所南都クラブ
17	外	田邊 隼斗	3	神川		ボーイス	南山城ドラゴンズ
18	外	蔵立 涼太	3	松原		ボーイス	京都スターズ

は新規
背番号の入れ替え

春季京都府高等学校野球大会 速報

2次戦

5月15日(日) 決勝 対福知山成美 (わかさスタジアム京都)

土壇場で粘り腰!! 見事に秋のリベンジ

- 立命館宇治 000 100 102=4
- 福知山成美 000 010 200=3

【立】福本-小林【福】山田、津田-響

▼3塁打 桑原(福) ▼2塁打 桑原、平野(福)

土肥、古川(立)

【寸評】



立命館宇治は1点を追う9回、1番からの好打順であったが1~2番ともに飛球を打ち上げ、2死走者なしと万事休すかと思われた。しかしここから脅威の粘り腰を発揮し、3番・松井が左前打で出塁すると、4番・古川が左中間と続き、1・3塁。盗塁で2・3塁とすると、今大会不振を極めていた5番・西村が左翼線へ渾身のタイムリーを放ち、再逆転した。

試合は4回に2塁打で出塁した古川を送り、6番・溝端のテキサスヒットで先制。追いつかれた7回には9番・田中大の右前打と1番・土肥の右中間2塁打で作った1死2・3塁のチャンスにワイルドピッチで追加点を奪った。

立命館宇治の先発・福本は連投となったが、上位打線には9安打を打たれたものの、逆に下位打線

は1安打に封じ込めた。逆転した9回裏の守りでは無死2塁から最終的には2死満塁まで追い詰められたが、最後の打者を右フライに打ち取った。

立命館宇治は旧・宇治高校時代を含めると、1982年以来、春は29年ぶりに3度目の優勝となった。

5月28日より大阪舞洲ベースボールスタジアムで行われる春季近畿地区大会に京都府代表として出場する。

※写真は9回逆転のタイムリーを放った西村幸樹(3年)

5月14日(土) 準決勝 対京都外大西 (わかさスタジアム京都)

2回にビッグイニング!! コールドで決勝へ

- 京都外大西 100 000 1=2
- 立命館宇治 060 011 1=9X
(7回コールド)

【京】八木尾、森、瀬口-平野【立】福本-小林

▼3塁打 石山(京) ▼2塁打 田中大(立)

【寸評】

立命館宇治は1点を追う2回、2四死球と内野安打でつかんだ無死満塁のチャンスに7番・小林の右前打で同点とすると、8番・福本の右前打、1番・土肥の三遊間、四球と犠飛を絡めた後、4番・古川の中前打で計6点とビッグイニングを作った。

以降も制球の悪い外大西投手陣を攻め立て、5回には2死2塁から9番・田中大の2塁打で加点。6回にはこの3安打目の小林のタイムリーで、失策で1点を失った7回には2死満塁からワイルドピッチで土肥が判断良く生還し、コールドゲームとした。

先発した福本は初回到にタイムリーで1点を献上したものの、9安打を打たれながらも、大量点に守られて我慢の投球に終始した。

立命館宇治は6年ぶりに決勝戦に進出し、秋の2次戦1回戦で敗れた福知山成美に挑む。

※写真は粘り強い投球で完投した福本拓也(3年)



5月8日(日) 準々決勝 対京都成章 (わかさスタジアム京都)

弱点露呈!! 苦しみなながらもベスト4

- 立命館宇治 110 020 002=6

● 京都成章 000 000 410=5

【立】福本、西垣-小林【京】西野、荻野、谷口、柳尾-柏木

▼本塁打 土肥（立）▼3塁打 土肥（立）▼2塁打 宮本、北川
柳尾（京）

【寸評】 8回裏に勝ち越し点を奪われた立命館宇治は、9回死球で出た小林を送った後、代打・植本が凡退し、2死2塁となったが、続く1番・土肥は追い込まれながらも右越えに同点3塁打を放ち、続く2番・花岡が中前へ勝ち越しタイムリーを放って再逆転した。

立ち上がりには土肥の先頭打者本塁打で1点を先制した攻撃陣は、2回には2死3塁から8番・福本の左前打で2点目。5回には1死1.2塁から土肥のタイムリーと押し出しで2点を追加し、一歩的展開に持ち込めるかに思えた。

立ち上がりからやや制球を欠いたものの6回まで3安打に封じ込めていた福本は、7回1死から内野安打での出塁を許すと、四球を挟んで5連打を浴び、西垣にリリーフを仰いだ。西垣は2回1/3で4四球で、8回には併殺崩れの中に勝ち越し点を奪われたが、勝ち越した9回裏は気迫の投球を見せた。

それにしても快調に飛ばしながら突如連打を食らった福本、記録は安打になったが強い打球を後ろに弾く内野陣、依然として当たりのない中軸など、弱点が露呈された勝利となった。

※写真は先頭打者本塁打と9回同点3塁打を放った土肥純平（3年）



5月3日（火祝） 1回戦 対鳥 羽 （福知山球場）

下位打線の奮起でベスト8

○ 立命館宇治 020 000 14=7

● 鳥 羽 000 000 00=0

（8回コールド）

【立】福本-小林【鳥】山口、五味-石川

▼本塁打 小林（立）▼3塁打 福本（立）▼2塁打 松宮（鳥）

【寸評】 立命館宇治は下位打線の活躍でベスト8へ進出し、2年ぶりに夏の選手権京都大会のシード権を得た。

2回2死2塁から7番・小林の2点先制本塁打で先行したが、以降打線は沈黙。7回に1死満塁から9番・田中大の中前タイムリーでようやく3点目を追加すると、8回には2死満塁のチャンスに8番・福本が右中間を破る3塁打でさらに3点を追加し、大勢



を決した。

1～5番の上位打線は8回で2安打1四球と3出塁であったのに対し、6～9番は6安打3四球と活躍した。

先発した福本は4回に3連打を浴びたが、それ以外のイニングは1安打3四死球と安定し、1次戦2回戦から3試合連続完封。バックも無失策で盛りたてた。

※写真は先制本塁打を放った小林真人（3年）

1次戦

4月24日（日） 決勝 対西乙訓 （立命館宇治）

6回に5安打集中で突き放す

- 西乙訓 000 000 000=0
- 立命館宇治 100 004 00X=5X

【西】武田-太田【立】福本-小林

▼本塁打 花岡（立）▼2塁打 土肥、小林（立）

【寸評】

初戦で北嵯峨相手に3安打完封した西乙訓のエース武田に対し、立命館宇治は初回2番の花岡の本塁打で先制。しかしその後はチャンスを作りながらも後続なく0行進が続いた。チャンスが訪れたのは6回。先頭の3番・松井が四球で出塁すると、犠打を絡めて5番・西村のタイムリーで2点目。以降2死から4連打を集中して一挙4点を追加した。

2回戦に続いて先発した福本は被安打6ながら連打を許さず、8奪三振2四死球で3塁を踏ませなかった。バックも無失策に加え、3併殺で好投に応えた。



※写真は先制本塁打を放った花岡紘一朗（2年）

4月17日（日） 2回戦 対桂 （桂G）

福本、3塁踏ませず連続コールド

- 桂 000 000 0=0
- 立命館宇治 010 141 X=7X

(7回コールド)

【桂】笠松、西岡-野垣【立】福本-小林

▼2塁打 溝端 (立) 中園 (桂)

【寸評】

立命館宇治は2回、右越2塁打で出塁した6番・溝端が、送りバントで三進後、8番・福本が鮮やかに1～2塁を破り先制。4回には1死2・3塁から福本の内野ゴロで加点し、序盤から試合を優位に進めた。5回には3安打3四球を集中して4点。6回には1死2・3塁から4番・古川の犠飛で7点目をもぎ取った。

先発の福本は丁寧に打たせて獲る投球を心がけ、7イニングで被安打3、四球2で3塁を踏ませなかった。

7回コールドと一方的展開に思える試合も、チャンスに送りバントがことごとく決まらず、反省が求められる結果となった。今後に向けて大きな課題を得た。



※写真は今大会初先発の福本拓也 (3年)

4月10日 (日) 1回戦 対園部 (立命館宇治)

4番の一振りで8回コールド

● 園部 000 000 21=3

○ 立命館宇治 000 104 15=11X

(8回コールド)

【園】川勝、仲-谷口【立】西垣-小林

▼本塁打 古川 (立) ▼3塁打 溝端、小林 (立)

【寸評】

立命館宇治は8回無死満塁から3番・松井が左前打を放ち2点を追加。さらに走者二人を残して4番・古川が3点本塁打を放ち、重苦しい雰囲気になりかけていた試合に決着をつけた。

打線は立ち上がりから園部投手陣の緩い球にタイミングが合わず、序盤は0行進。4回に1死2塁から6番・溝端の中前打でようやく先制すると、6回には1死2塁から溝端、7番・小林の連続3塁打で加点した。

立ち上がりから6回まで毎回の11三振を奪っていた公式戦初先発の西垣は、7回の先頭打者を味方失策で出塁させると、以降は急降下。高めに浮いたボールを痛打された。練習試合では快調な出来であったが、公式戦の重圧が微妙な制球が甘かった。



※写真は公式戦初先発で2安打を放った溝端茂樹 (3年)

背番号	位置	名前	学年	出身中学	出身チーム	投	打
1	投	福本 拓也	3	山崎 東 (高津)	中学野球	左	左
2	捕	小林 真人	3	島本 二 (大飯)	中学野球	右	右
3	一	西村 幸樹	3	白 系	ボーイズ 舞鶴BBC	右	右
4	二	中森 胤人	3	山 城	ヤング オール山城	右	右
5	三	古川 昂樹	3	上 牧 二 (奈良)	ボーイズ 香芝	右	左
6	遊	土肥 純平	3	男 山 三	中学野球	右	右
7	左	花岡 紘一朗	2	奈良教大附 (奈良)	ボーイズ 葛城JFK	右	左
8	中	松井 悠真	2	楠 業 (大飯)	ボーイズ オール枚方	右	右
9	右	溝端 茂樹	3	山 滝 (大飯)	シニア 岸和田	右	左
10	投	西垣 翔太	2	和田 山 (高津)	ボーイズ 朝来	右	右
11	投	林 俊之介	3	立 命 館	中学野球	右	右
12	捕	村田 昌史	3	大 阪 桐 蔭 (大飯)	シニア 甲子園	右	右
13	内	植本 真澄	3	立 命 館 宇 治	ボーイズ オール大和	右	右
14	内	田中 大也	1	西 宇 治	ボーイズ オール枚方	右	右
15	内	田中 遼太	3	大 枝	ボーイズ 京都ホークス	右	左
16	外	椋田 純也	3	葛 上 (奈良)	ヤング 御所南都クラブ	右	右
17	外	田邊 隼人	3	神 川	ボーイズ 南山城ドラゴンズ	右	左
18	内	蔵立 涼太	3	松 原	ボーイズ 京都スターズ	右	右
19	捕	増井 慎也	1	如 是 (大飯)	シニア 高槻	右	右
20	外	北村 和也	3	城 南 (大飯)	少年野球 松永ヤンキース	右	右

2011年5月度のトピックス

5月29日

順延でメンバーのみ練習。台風準備も



近畿大会初戦は台風接近に伴う大雨で、朝早くに連盟から「順延」連絡があった。この間、前期中間テスト前にも関わらず、ベンチ入りメンバー+上級生で練習が行われてきたが、この日はメンバー以外は自宅でテスト勉強に集中するよう通達された。グラウンドに集まった20名のメンバーは午前中のみ室内練習場で汗を流した。また今夜半にも通過が予想される台風に備えて、練習前に全員でネットを降ろす作業も行った。

5月21日

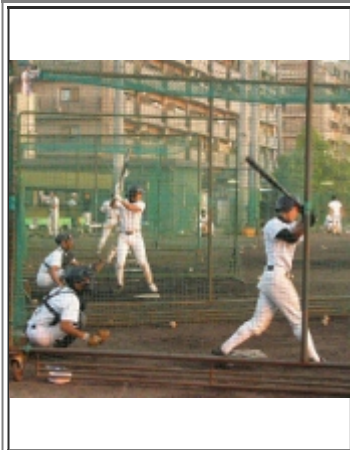
強豪校との定期シリーズが始まる



5月中下旬から6月一杯まではほぼ毎年同じ相手との練習試合で強豪校の胸を借りている。近畿大会の都合で金光大阪と広陵はキャンセルさせていたが、この日の高岡商業を皮切りに、東洋大姫路、松山商、市川、天理、三重海星、八頭、三重と続く。もちろん先日始まった強化練習で追い込まれた中での試合となり、今シーズンが始まってから練習試合を含めて32勝1敗と突き進むチームにも必ずや試練が訪れると確信する。それを乗り越えて真の強さを身につけてもらいたい。

5月18日

春優勝、即日夏の強化練習開始



春季大会優勝後にグラウンドに戻っての卯瀧監督の第一声は優勝の労いの言葉でもなく、近畿大会への豊富でもなかった。「夏に向かって時間が無い。例年ならもう強化練習に入っている。今年は遅れた。今から強化練習に入る」。2~3年生は早速夏の強化メンバーを選ぶ投票が行われ、18名に加えて、秋の主力と目されるメンバーを加えられた。翌日からは恒例の100本ノック。ノッカーはメンバーから外れた上級生という光景は例年と変わらない。近畿大会を軽視してはいないが、そこに向けての調整は眼中になく、あくまでも目標は「夏の優勝」なのである。

5月8日

OBや保護者OBがわかさスタジアムで声援



わかさスタジアム京都で行われた春季大会準々決勝には大学生OBや保護者OBがたくさん応援に駆けつけてくれた。特に保護者OBの声援は現役保護者や現場にとっても有り難いもの。また大学生OBには昨年の選抜大会で応援団長を務めた春名OBと副団長の小澤OBもあり、プレーもさることながら、スタンドの現役応援団の様子も気になった様子。ところどころで応援団にアドバイスを送っていた。

5月3日

昼休みの応援練習成果を披露



春季大会2次戦進出が決定した翌日から、3年生の指導による1年生への応援練習が始まった。昨夏は大会前日に急遽グラウンドで行ったため、近隣から苦情もあり、今大会は早い目に準備し、全て学校で行ってきた。初戦に備えて前泊したメンバーとは異なり、当日朝に福知山球場に向かった応援メンバーはこの日が初めてとは思えない息のあった応援を披露した。

また1年生はこの日から試合用のユニフォームを着ることを許可され、全員赤いメガホンで大声で応援した。

2011年4月度のトピックス

4月29日

7連休のGWで恒例の紅白戦が始まる



7連休のGWが始まった。大切な2次戦を控えているが、2次戦のメンバーは1次戦のメンバーがそのままスライドするとは限らない。現に怪我にもいる。82名の部員がいて、20数名が投手の練習をしているが、公式戦でスターターを任せられるのはたった2名というのが偽らざる事実でもある。この日は春季大会の二桁背番号とその次にくるクラスとの12イニング制。特に新入生の投手陣はGWの紅白戦がひとつの試金石となる。ひとり4イニングずつ合計6名の投手が登板したが、果たしてキラリ星は登場したか....。

4月24日

今日だけは中立な立場で応援します



ブライトボディのトレーナー野尻氏は、本日の公式戦はネット裏中央に陣取って応援した。自身が府内では立命館宇治、久御山、西乙訓を担当しているため、両者の対戦が実現したことにより、ネット裏中央から中立な立場で応援しなければならなくなった。「こんなこと滅多にないのですが」と語りながら、けが人が出たベンチを走り回り、試合後のケアも両チームに行っていた。

4月17日

「戻って軽く練習しますう」?? そんなわけない



春季大会2回戦は形の上ではコールドだが、試合途中から監督以外のスタッフは「これは試合終了後、とんでもないことになる....」と予想していた。送りバントがごとごとく決まらない。試合後に卯瀧監督が保護者全体に笑顔で「グラウンドに戻って軽く練習しますう」と一言。「そんなわけない....」。案の定、午後からの練習は送りバントオンリー。途中何度も集合をかけ、ついにはネット裏にメンバー外全員を集め、周囲の視線が集まる中での繰り返し。これもプレッシャーをかける方法か、やる方も見つめる方も真剣な眼差し。これが次に生かされるか。

4月17日

6年ぶりに1次戦でアウェイを経験



野球部グラウンドが公式戦会場となる広さがあるため、各学校を会場に行われる1次戦ではホームでの試合となることが多かった。今春季大会では、立命館宇治に加え、桂・北嵯峨と会場校となれる学校が3校集中したため、2回戦ではアウェイとなった。1次戦でアウェイで試合をするのは実に6年ぶり（秋季大会初戦・平安戦）。部員が82名となったため、貸し切りバス1台では移動できず、2台で試合会場にお世話になった。2～3年生は全員試合用ユニフォームで、1年生はメンバー外は全員制服での応援となった。

4月16日

ゴミ捨て場を3壘堀沿いに移設



グラウンドのゴミ捨て場はクラブハウスのグラウンド側にあり、定期的に生徒寮に運び、処理をお願いしている。部員は交代制で頻繁にゴミをリヤカーに積み込み、寮まで往復している。しかしこのゴミ捨て場は3壘からレフトへ移動する通路にあり、溜まってくると景観も宜しくない。「立宇治に来た4年前から、このゴミ箱の位置は気になっていた」という卯瀧先生は、クラブハウス内でリニューアルされたのを機会に、ゴミ捨て場の移設を敢行。カラスよけのネットも張り、回りをボードで囲んだ。3年生のけが人メンバーが、上手に緑色に塗り替え完成した

4月15日

新入部員は26名。総勢82名の所帯に



春休み中から練習に参加していた新入生24名に加え、入学後に入部意志を示した1年生がさらに2名。上級生と合わせて総勢82名の所帯となった。近年は1学年20名弱で推移してきただけに、この多さは夏の甲子園に二度出場した旧宇治高校時代の隆盛期に迫る。当時は「入学時はクラスの半分が野球部員だったが、夏休みに入る頃には各クラス数人以下になっていた」という逸話が残っているが、卯瀧監督になってからは退部部員がほとんどおらず、夏までこの数字は大幅には減となる可能性はほとんどない。

4月14日

新顧問に数学科の柳川政権先生



昨年一年間お世話になった水口貴之顧問が、中学1年生の担任となったため、今年度より硬式野球部顧問として柳川政権先生をお迎えすることとなった。福井県出身で、この春に堀川高校より転動してきた数学科の先生で、自身は野球経験はないが、学生時代はバスケットボール部に所属していた。これから練習や試合に帯同していただくことになる。また中学配属となった水口先生は「乗りかかった船」と硬式野球部の地獄の朝練習は引き続き、お世話になることになっている。

4月8日

リニューアル最終 新しい下駄箱を搬入



部員のクラブハウス改修の最終段階である下駄箱が搬入された。今までは学校で不要になった下駄箱をもらい受け、サイズがまちまちのものを使用していた。今回は部員の増に伴い、従来のものでは不公平になるため、48名が2足ずつ入れられるものを2つ購入。これで普段は使用しない試合用スパイクをケースに入れて更衣ブースに収納すれば、普段使用するアップシューズと練習用スパイクは全員が自分のスペースに完璧に収まるはずである。

4月1日

真新しい更衣ロッカーが全員に



部員たちが着替えるクラブハウスに真新しい更衣ロッカー96名分が搬入された。床がきれいに張り替えられ、壁が塗り替えられのを機会に、今までサイズがまちまちであったロッカーを廃棄し、新規に購入。全員が同じスペースを使うことになる。全てのロッカーに001~100の番号が振り当てられ、学年によって大きく3つのゾーンに分けて配置された。もちろん後輩たちにきれいに受け継いでいくためにも、スタッフから「落書きやシール貼りは厳禁」と通達された。

2011年3月度のトピックス

3月29日

保護者の協力できれいに!! ダグアウト裏の棚



卯瀧監督が就任した4年前の春に、OBがダグアウト裏にパイプとコンパネを利用して製作してくれた荷物を置く棚。それまでは地面に置くしかなかった道具をベンチ裏にきれいに置けるようになっていたが、4年間風雨や厳しい太陽にさらされ、コンパネは一部腐敗して反り返り、中には抜け落ちそうな箇所も。そこでスタッフが新しいコンパネに置き換えたが、不器用なスタッフはそこまで。後は保護者の有志がコンパネをきれいにそろえ、柱に沿って切り込みを入れて下さった。今度はなるべく長持ちするようにスタッフで塗装も施したい。保護者の皆様、ありがとうございました。

3月25日

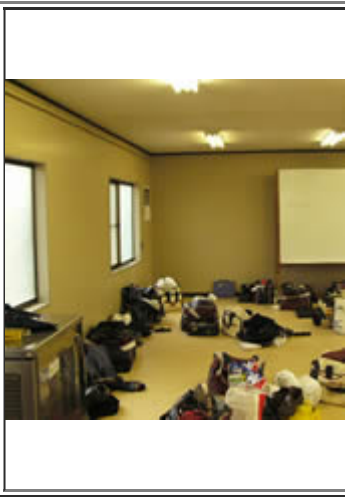
新入生が初参加!! 80名の大所帯に



先月15日に行われた合格発表後に入部意志を示した新入部員が、連盟解禁日となるこの日から練習に参加した。現段階で24名の入部は確実で、56名の現部員と合わせると80名の大台に乗る。3学年で80名を越すのは1980年代に夏の甲子園に2度出場した初期の黄金期以来20数年ぶり。即戦力と期待される者も何名かいる。早速ウォーミングアップのやり方、スナップスローの指導が入った。また午後からは注文していたチームグッズが全て届き、真新しいバッグに詰め込まれたユニフォームなどを手にした。

3月24日

内装完成!! クラブハウスが新築の装い



17日から行われていたクラブハウスの床の張り替え作業は予定通り3日間で完了。ところが綺麗になった床を見ると、「これを機会に壁もきれいに」と欲が出てくる。更衣用の古い棚やロッカーはこれを機会に全て破棄し、部員が増えるこの機会に92名分のロッカーを入れる予定だが、「どうせロッカーで隠れるから」ではなく、部員に綺麗に使用させるためにも、土埃で黒ずんでいる壁を綺麗にとスタッフの知り合いの塗装屋さんに急なお願いをし、完成した。まるで新築の内装。ロッカーがないため、しばらくは床に荷物をおくことになるが、「常に綺麗に」を心がけてもらいたい。

3月23日

2年ぶりの参加 洛南交流試合



23日は洛南交流試合が太陽が丘球場で行われた。今日から4日間行われるが、この日は昨秋の予選リーグで各ブロック1位の学校が集う1～4位決定戦。一昨秋の近畿大会出場から昨春のセンバツ大会のため2年ぶりの出場となった立命館宇治は、午前中は1年生が球技大会のため、準決勝・城陽戦は終盤に再逆転して7-5と辛勝。続く決勝戦は1年生も合流し、西城陽に12-3で7回コールド勝ちした。公式戦でも使用される球場での試合は、良い経験となった。

3月20日

ダグアウトのベンチを新しく



1・3塁のダグアウトには背もたれ付きのベンチが7脚ずつ入っている。これは立命館宇治がそれまで使用していた宇治黄檗球場から立命館大学びわこ・くさつキャンパスに練習場を移転した1996年に、大塚製薬とコカコーラから大学生協を通じて寄贈されたもので、当然それぞれの商品名入り。また色もブルー、イエロー、レッドとまちまちであった。間もなく10数年を迎えるこの機会に、スタッフがインターネットで探し回ったものが写真のもの。正式にはコマーシャルベンチという。本来は背もたれの部分のコマーシャル(商品名)が入るが、勿論なし。そして色も「野球場にふさわしく」とこだわり、グリーンを探してみました。



続け、後輩たち!!

稲川研修コーチが、今春より府立高校教壇へ

09年5月より、土日を中心に研修コーチとして部員の指導に携わっていた稲川佳祐コーチが京都府の教員採用試験（高校保健体育）に合格し、今春より府立高校の教壇に立つ。立命館宇治高校時代、選抜大会初出場時に2番・ライトで出場。大学でも不断の努力で3回生春からは常時ベンチ入りし、時にはスタメンに名を連ねることもあった。卒業後は自らの夢である教師を目指し、大学時代に取得した社会科の免許に加え、保健体育の免許を取るべく聴講で大学に通っていた。昨春の選抜大会では甲子園練習でノックもした。立命館宇治になってからのOBでは今春大阪府立高校採用（国語科）予定である屋敷悠OBとともに教員第1～2号となる。

その意義1～スポーツ推薦ではない存在

稲川OBは立命館宇治高校にスポーツ推薦（現在の推B）で合格したわけではない。当時は同学年に数名のスポーツ推薦生がおり、はっきり言えばあまり期待された存在ではなかった。しかし内野手から外野手へ転向し、人の三倍の努力で、2年夏には二桁背番号ながら公式戦に出場し、4打数4安打と強烈なデビューで印象づけた。秋からは不動の1番打者となり、秋季京都大会優勝～近畿大会ベスト4～選抜大会初出場と貢献した。

謙虚な姿勢での努力は大学でも続き、2回生にはリーグ戦にも出場。3回生からは常時ベンチ入りし、藤原大輔OB（現大阪ガス）とともに立命館外野陣の両翼を担うこともあった。

その意義2～硬式野球部21世紀構想の実現

03年秋、硬式野球部は当時練習場であった立命館大学びわこ・くさつキャンパスから、宇治市三室戸旧キャンパス跡地を硬式野球部専用グラウンドへと要望する中で、A4で10数枚の「立命館宇治硬式野球部21世紀構想」というレポートを学園に提出した。新グラウンドが完成することにより、単に甲子園に行くという結果のみを求める集団ではなく、真の立命館スピリットを持った野球人を醸成し、将来の指導者を広く全国へ送るといったものである。

部員の中には保護者が教員であり、将来の希望職業を「教員」とする者が圧倒的に多い。特に卯瀧監督を迎えてからは「自分も将来、高校野球の指導者になって」と語る者が顕著に増えてきたが、稲川OBはその第1号である。後輩たちには是非とも続いてもらいたい。

最後に

今までレギュラーになれなかった自分を振り返り、「自分はスポーツ推薦ではなかったの」と語った部員はたくさんいた。また教職を目指しながら「大学で野球を続けていては無理」と志半ばで諦めたOBもいた。しかし稲川OBが歩んできた軌跡は、「やればできる」ということを具体的に示した良きお手本であり、第3号へと続

いていくことを切に願いたい。

勿論、稲川OBの目標は「教員になること」ではない。

いつか立命館宇治を倒す勢いのチームを作って、対戦できることを楽しみにしたい。

石川

3月18日

クラブハウスの床を張り替え



部員が更衣したり食事したりするクラブハウスはグラウンド移転当時からあるが、三室戸に校舎があった時代は体育の授業の時には男女の更衣室として、また工事中は現場事務所として使われていたものをそのまま使用している。中で暴れるわけではないが、部員数も増え、出入りも頻繁になっているせいか、最近では床にひずみが生じてきていた。2月にグラウンドを別件で視察にきた学園施設課が「この床は危険。早急に対策を」と判断し、この3日間で床の張り替え工事を行うことになった。この間、部員は室内練習場での更衣となるが、新しく床が張り替えられたクラブハウスを心待ちにしたい。尚、近日中に外野奥の男女トイレも新しいものになる予定である。

3月15日

半年に一度のリニューアル。ネームボード



写真は全部員の名前が書いたマグネットボード。作りは簡単でPCで作成した名前の表を写真用印画紙にプリントアウトし、マグネットに貼り付けてカットするというもの。着脱がしやすいようにある程度の厚みを持たせるため、間に数ミリ厚のゴムが挟まれている。学年によって色分けされており、主務がその日の練習グループ分けや紅白戦メンバー、当番を決めるときに使われる。上はその縮小版で試合前には卯瀧監督はこのボードとにらめっこし、当日のメンバー決める。縮小版は100均で買ったクリアケースにうまくはめ込み、遠征での持ち運びも可能となっている。いずれも使用頻度が激しいため、半年に一度のリニューアルがされており、今回は入部予定者の分も含めて作られた。

3月12日

野球が出来ることの幸せを実感して....



アウェイで練習試合が行われた。夏の選手権京都大会まで数10試合が組まれているが、アウェイでの試合は少ない。勝手知ったる我が家（ホームグラウンド）での動きとは異なり、ひとつひとつの行動にチームワークと責任が要求される。またこの日はAチームとBチームの2班に分かれての動きとなったが、昨夕から報じられている震災について、スタッフから「日々当たり前のように野球をし、知らないうちに時間が過ぎていくのではなく、同じ国内で震災が起こったことを考え、日々野球が出来ることに幸せを実感し、感謝して欲しい」と部員に語りかけがあった。

祝卒業!! 16名の3年生



3月11日

様々な思い出を胸に16名の3年生が巣立つ



11日、高校卒業式が行われた。部史に選抜出場という新たな歴史を刻んでくれた16名の3年生がキャンパスを巣立った。

昨年から3年生を送るイベントはキャンパスではなく、グラウンドで行われており、卒業式を終えた3年生16名が3年間汗を流したグラウンドを訪れ、後輩達に別れを告げた。後輩から卒業生に記念品と色紙が手渡され、卯瀧監督をはじめスタッフから、また部員を代表して古川主将が3年生に挨拶をした。最後にひとりひとりが全員と握手をし、全部員で集合写真を撮影した。

3月10日

春のオープン戦始まる!! センバツ報徳に勝利



待望の練習試合が始まった。真冬並みの気温であったが、部員達は本格的練習を再開してまだ1週間も経っていない中で、選抜に向けて調整する報徳学園の胸を借りた。

昨春もうちが選抜出場前にお手合わせいただいた経緯があり、今年も又グラウンドに来ていただいた。一方的展開で敗れるかと思いきや、先発福本が5回を3点本塁打による失点のみに、また6回からリリースした西垣が4回を0封し、勝利することができた。まだまだ課題山積だが、さい先の良いスタートが切れたことは間違いない。

3月10日

実は昨秋から活躍。トランシーバー4台



昨夏よりスコアボードがセンター奥に完成し、SBOはその横に置かれ、コントロールスイッチは無線で飛ばすタイプで本部席に常設された。しかし時々操作ミスや計算ミスが起こる。そうなると思いついた者が本部席やスコアボードへ訂正の伝達に走らなければならない。また公式戦では部員が駐車場係を行うことになり、用事があるごとに持ち場を離れて動かなければならない。「何とか効率よく」と考えられたのが、写真の4台のトランシーバー。練習試合では本部席、ベンチ、スコアボード、顧問が一台ずつを所有し、適宜連絡を取り合っている。

3月9日

復活した貴重な戦力!! スポーツトラクター



写真は内野を整備するのに強力な助っ人となるスポーツトラクター。立命館宇治高校1期生で立命館大学でもエースとして活躍し、2001年自由獲得枠でオリックス・ブルーウェーブに入団した小川祐介先輩がプロ野球入団時に記念品として贈ってくれたもの。当然、前グラウンドのBKC時代から活躍していたが、ここ3年ほどは故障がち。近くのガソリンスタンドや自動車修理工場に持って行っても「根本的に車の構造と違うので修理に自信がない」と言われる始末。ついにこの1年は全く動かさずであったが、この冬に「思い切って農耕機専門の店にお願いしてみよう」と修理を依頼。エンジンをはじめ、ほぼ全ての部品を新品に交換してもらい、まるで新車時のような快適さが戻った。まだまだ活躍して貰わなければならない。

3月5日

学年末テスト終了し、全体練習再開!!



学年末テストが終了し、全体練習が4日から再開した。4日は寒の戻りで冷え込んだが、この日の気温はぐんぐん上昇。午前中のフリーバッティング。午後からの守備練習、シート打撃と56名全員が心地よい汗を流した。卯瀧監督も「例年は一冬越すと守備力の向上が目につくが、今年はスイングの鋭さが目立つ。打撃は昨年の選拔出場チームを上回るかも」と語る。また投手陣は大事な場面は福本ひとりに頼らなかった昨秋とは変貌をとげ、特に下級生の成長に著しいものが目立つ。練習試合は10日の報徳学園を皮切りに、春休み中に39試合を行う予定である。

3月5日

卯瀧監督が京都野球協会から表彰



卯瀧監督が4日、京都市中京区で行われた京都野球協会総会で、2010年度「京都球界に貢献した指導者」として表彰された。今回の表彰は昨春の選拔出場が認められたもので、高校野球の監督としては唯一選ばれた（他は大学指導者、審判員）。卯瀧監督自身、この功労賞の受賞は初めてではないが、受賞そのものは学園としても大変名誉なこと。間もなく迎える新入生も「卯瀧先生の指導を受けたいから」という志望校選択理由を明確に意思表示するものも多くいる。